

数日後、俺は百叶に会うために、
オフィスのビルにやってきた。

いつものように深夜のオフィスのビルに侵入し、
百叶の居るトイレの個室をノックする。

はい

俺だけど

あ、おちさん

チヨリーツス!
こんばんわツス!

元気な褐色ギャルが、
扉の奥から現れた。

今日はどうする?..

今日は、セックスがしたいツス。
おぢさんの生ちんぽで、
おマンコスコスゴして下さい

黒ギャルは性に奔放だった。とてもよろしい。
ご褒美とばかりに俺は、1万5千円を握らせる。

ありがとうツス! じゃあ.....
毎分、たっぷり楽しんで欲しいツス

そう言って、百叶が
真っ黒なお尻を俺に突き出した。

こんがり焼けた尻の谷間にペニスを置くと、
ペニスは簡単に固くなっていく。

お、お、お……
ガツチガチい……

あふ……
んっ……

百叶が嬉しそうな声を上げる。

おちさん……
あたしもう、濡れてきてるツス

そう言っつて、百叶が腰をくねらせる。
勃起したペニスが、尻の谷間に埋まっていく。

チヨーチンポ欲しいツス……。
挿れるね、挿れちゃうツスね……っ

百叶は自ら腰を引くと、器用に俺のペニスを、
自分の中へと導き入れた。

びんぽんぽん
びんぽん

びんぽん

びんぽん
びんぽん

んっ……
ぶっ……

あ、ふや、や……っ、
ああ、あああああ——っ！

「バックをほんの少し横にずらしただけで、俺のペニスは、百叶の中に入ってしまった。」

——じゅぶ、じゅく、じゅるっ！

びくッ

ふーっ
しゅしゅしゅしゅ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ジュジュ
ジュジュ

や、あ、あ……っ！ ああ、あああああっ！
生チンポ……マチ、マチいいよお……っ、
もっとならてえ……っ、いっぱい、かき混ぜてえ……っ

どうか？

うん、ひや、や——っ！
ひや、ひや、ひや……っ！

はあ、あ……♡

ふっ♡
んっ♡

剥き出しの褐色尻に腰をぶつける。
パァンと、湿った音がオフィスビルに響いた。

ふふふ

ぷるん

びちゃびちゃ

ひゃ、や、あぁ……っ、
お尻、奥っ、痺れる、痺れてきたあ……っ

おじさあん……
そこ、だめ、だめ……っ！
や、ひぐ、うぐ……っ、
うぐ、うぐうぐ……っ！

ぷるん

ぷるん

お尻
びちゃびちゃ

びちゃびちゃ

びちゃびちゃ

おまんこが……
奥も、入り口もジンジンしてっ
ひゃ、や、あ……っ、
頭、頭も、痺れてきてるう……

おチンポだめえ……マヂパねえっ
イク……イツちやうつ、こっぴ
イツちやうツスよお……っ！

ぷるん

イクっ
イクっ

ひゃんっ、ふあ、あ……っ
ああ、ああああ……

百叶の身体に精液がおちる。
白いシャツや褐色の肌が、
白濁に汚れた様に俺は、

興奮……
したツスか？

♡百叶♡

ああ

たつぷりとセックスを堪能した。

ようやく、左手が軽くなってくる。
百叶の足に、力が戻って来たらしい。

(今日も
いいセックスだった……)

は——……

は——
は——……

ふ——……
あふう……